

市町村名		西原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①		観光地美化・緑化等環境整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ	
	担当部課名	建設部 都市整備課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備	
事業内容	沖繩らしい風景を保全するため、公園の芝刈り、樹木剪定、植栽等を行い、魅力的な観光地としての景観形成を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	30,672	30,672	30,672	22,680	20,000
	(b) 予算現額	30,672	28,000	28,000	21,000	19,030	
	(c) 増減額(b-a)	0	▲ 2,672	▲ 2,672	▲ 1,680	▲ 970	
	(d) 繰越額	-	-	-	-	-	
	A. 計(b+d)	30,672	28,000	28,000	21,000	19,030	
	B. 執行済額	30,500	28,000	28,000	21,000	19,030	
	うち交付金充当額	24,400	22,400	22,400	16,800	15,224	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明	当初予算と、契約額に差額が生じ、不用の970千円を減額した。事業は予定どおり執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	町内公園の美化・緑化実施:3箇所 ①西原運動公園 ②東崎公園 ③東崎都市緑地		目標 (3箇所)	(3箇所)	(3箇所)	(3箇所)	
			実績 3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	
達成状況説明	環境整備により、雑草や樹木の繁茂を抑制し美化・緑化を行い、沖繩らしい景観を保持し観光に貢献することができた。 ①西原運動公園：沖繩らしい景観を保持し、各種スポーツ競技やサッカーキャンプを開催し公園利用が活性化。 ②東崎公園：沖繩らしい景観を保持し、各種イベントやサッカーキャンプを開催し、隣接の東崎都市緑地やマリナーパークと一体的に利用し活性化。 ③東崎都市緑地：沖繩らしい景観を保持し、隣接する東崎公園やマリナーパーク及びビーチと一体的な施設として利用し活性化。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	観光客や地元住民に対し、魅力的な観光地としての景観形成を図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検証する。		目標		(80%以上)	(80%以上)	()
			実績		80%	77%	
	【参考指標】施設利用者数 西原運動公園・東崎公園・東崎都市緑地公園		目標	()	(225千人)	()	()
			実績		247千人		
進捗状況説明	環境整備による美化・緑化を行うことで、沖繩らしい景観等を保持し観光施設地内を快適に利用できるようになったが、観光客や地元住民へアンケートをとったところ、「とても良い」、「良い」と回答した割合は77%であり、目標を達成することができなかった。						

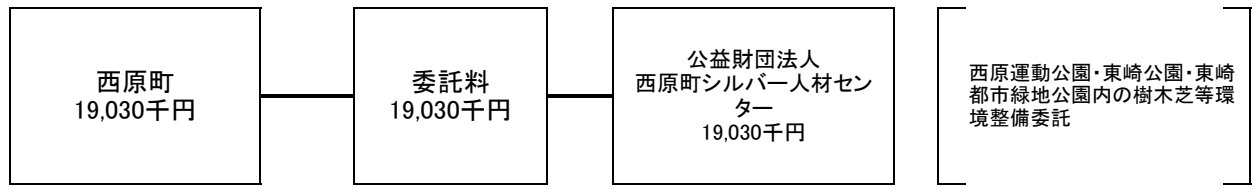
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・成果目標は達成することができなかったが、アンケート結果のうち77%が肯定的な回答となっており、本事業は、魅力的な観光地としての景観形成に一定の効果을 上げているものとする。次年度は、目標値の達成に向けて、より効果的な実施方法を検討する必要がある。</p>	<p>・効果的に環境整備や景観保全が行えるよう、施設内の点検を強化し、事前に整備対象となる箇所を確認する。</p>

今後の取り組み方針

・施設内の点検回数を増やし、委託者等との定例の調整会議で整備対象となる箇所を確認し、効率的に芝刈り、樹木剪定、植栽等を行うことで、魅力的な観光地としての景観形成に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
19,030	19,030	15,224	3,806	0



資金の用途の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法第167条2第1項第3号の規定に準じて随意契約を行っており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初計画に見合った目的、予算規模を達成しており、適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については毎月の報告により検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断し適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②		文化財環境整備活用事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
	担当部署名		教育部 文化課	事業実施(予定)年度	平成25~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり Ⅲ-1-(1)
事業内容	西原町内にある文化財及び文化財周辺の環境美化・整備や文化財ガイドの育成及び文化財巡り等イベントを開催し、観光誘客に向けた基礎的環境整備を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,121	8,449	8,692	9,230	6,785
		(b) 予算現額	8,121	8,449	8,691	9,230	6,683
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲1	0	▲102
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		8,121	8,449	8,691	9,230	6,683
	B. 執行済額		8,120	8,363	8,687	9,154	6,669
	うち交付金充当額		6,495	6,690	6,949	7,323	5,335
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.0%	100.0%	99.2%	99.8%
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> 文化財及び文化財周辺の環境美化・整備については、当初の計画どおり、5月から実施し3月で終了した。 委託額が当初の設計額(予算)より低い額となった。そのため、不用額の事業費102千円を減額した。 					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	文化財及び文化財周辺の環境美化・整備の実施:24箇所	目標	文化財21箇所×3回 (指定文化財3箇所×6回)	文化財21箇所×3回 (指定文化財3箇所×6回)	文化財21箇所×3回 (指定文化財3箇所×6回)	文化財21箇所×2回 (指定文化財3箇所×4回)	
		実績	文化財21箇所×3回 指定文化財3箇所×6回	文化財21箇所×3回 指定文化財3箇所×6回	文化財21箇所×3回 指定文化財3箇所×6回	文化財21箇所×2回 指定文化財3箇所×4回	
	町指定天然記念物「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」の診断・治療	目標	(診察)	(診察)	(診断・治療)	(診断・治療)	
		実績	診察完了	診察完了	診断・治療実施	診断完了	
	・文化財ガイドの育成 勉強会:12回(月1回) ・文化財巡り等イベント開催:3回	目標	(勉強会12回開催、イベント2回開催)	(勉強会12回開催、イベント2回開催)	(勉強会12回開催、イベント3回開催)	(勉強会12回開催、イベント3回開催)	
		実績	勉強会12回開催、文化財巡りイベント2回開催	勉強会12回開催、文化財巡りイベント2回開催	勉強会12回開催、イベント2回開催	勉強会12回開催、イベント1回開催	
	達成状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 文化財及び文化財周辺の環境美化について、当初の目標どおり24箇所の清掃等を実施した。(文化財21箇所×2回、指定文化財3箇所×4回) 町指定天然記念物「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」の診断については、当初実施を予定していた時期から少し遅れたが、概ね計画どおり実施した。なお、前年度実施した治療から健全化が確認されるかの診断を行ったが、変化はほとんど見られなかった。 歴史ガイド団体との勉強会では、文化財巡りイベントに向け、案内する文化財の選定、現況見学、ルート確認、案内用に選定した文化財の勉強会及び地域住民からの聞き取り調査等も実施した。 イベントの開催については、当初計画していた3つのうち、「歴史講演会」は開催ができたが、これ以外の2つ(「歴史の道を歩く事業」、「地域散策事業」)が中止となった。中止理由としては、「歴史の道を歩く事業」は首里城へ向かうイベント内容となっており、当イベントの開催日が首里城火災の3日後であったことから、急遽中止とした。また、「地域散策事業」は当初の開催日が雨天となり、開催日程を延期したが、再度設定した日も雨天となったため、中止とした。 				
	成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度
文化財巡り等イベント参加者数120名以上		目標	()	歴史の道を歩く:40名 地域散策町内邑廻い:30名	歴史講演会:40名 歴史の道を歩く:40名 地域散策町内邑廻い:40名	歴史講演会:40名 歴史の道を歩く:40名	()
		実績		歴史の道を歩く:38名 地域散策町内邑廻い:32名	歴史講演会:148名 歴史の道を歩く:雨天中止 地域散策町内邑廻い:43名	歴史講演会:104名 歴史の道を歩く:中止 地域散策町内邑廻い:雨天中止	
進捗状況説明		<ul style="list-style-type: none"> 当初は3つのイベントを企画していたが、天候不良等により2つが中止となり、本町と町の歴史ガイド団体が本年度開催できたイベントは「歴史講演会」のみとなった。結果、「歴史講演会」の参加者数は104名で、目標値を達成することはできなかった。 					

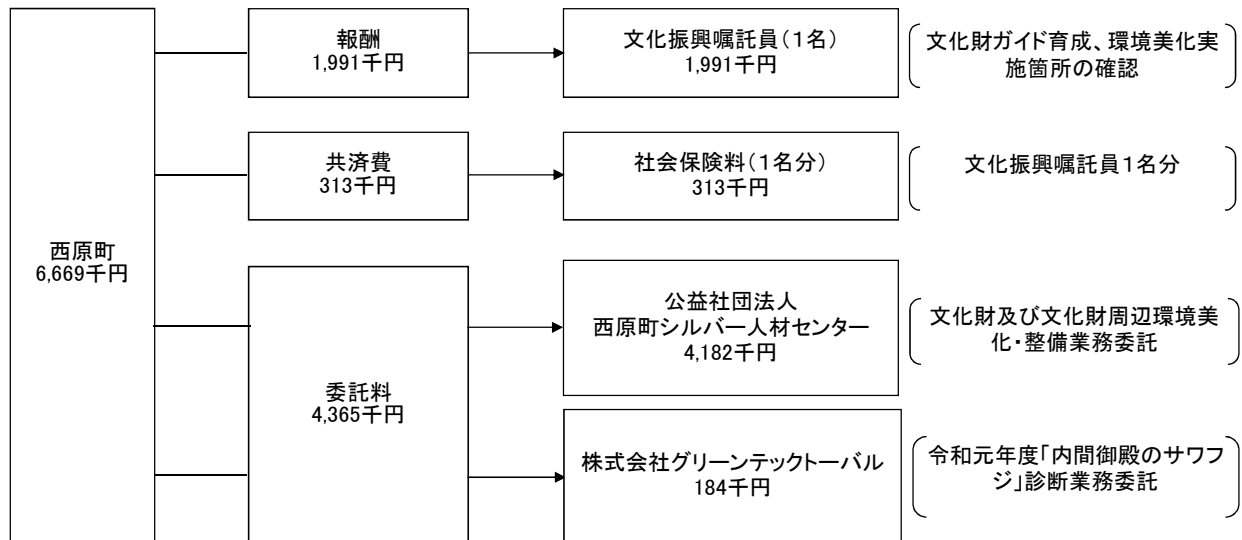
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の屋外イベントは、首里城火災の影響や、雨天の影響により中止せざるを得ない状況となった。 ・屋内イベントは、天候等の影響が少ないため、文化財活用の一つとして改めて必要性を感じた。 ・「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」(町指定天然記念物)は、前年度に実施した治療から樹木の健全化が確認されるかの診断を行ったが、変化はほとんど見られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度から再び「歴史の道を歩く事業」は開催できそうだが、屋外でのイベントは天候に左右されるため、予備日を設けながら開催できるよう準備をしたい。また、屋外イベント時の新型コロナウイルス感染予防対策についても併せて検討していきたい。 ・次年度の屋内イベント開催については、新型コロナウイルス感染予防対策として、参加人数を制限する必要があるが、引き続き本事業の重要な文化財活用の一つとして実施していきたい。 ・「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」は、次年度以降に新たな土壌改良(治療方法)を取り入れて、樹木の健全化を図っていきたい。また、年1回の診断も引き続き実施していきたい。

今後の取り組み方針

- ・今後も継続して文化財が所在する場所の基礎的環境整備や、ボランティア歴史ガイド団体の育成を図りながら、屋外での文化財案内イベントが開催できるよう予備日を設けて準備をする。
- ・屋内開催イベントは、引き続き本事業の重要な文化財活用の一つとして実施する。
- ・町指定天然記念物「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」は、健全化を目指して新たな土壌改良(治療方法)を取り入れる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金	市町村負担金	
6,669	6,669	5,335	1,334	0



	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流れ、費目・使途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○「文化財及び文化財周辺環境美化・整備業務委託」は、地方自治法施行令第167条の2第1項第3号の規定に準じて随意契約を行っており、妥当であったと考えている。また、「令和元年度「内間御殿のサワフジ」診断業務委託」は、契約規則第40条第6号の規定に準じて随意契約を行っており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費用は事業費の0.2%程度であり、事業内容に見合った適正な予算規模と考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、内訳書の提出及び清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	西原町											
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	1-④	西原まつり運営事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ							
担当部署名	総務部 企画財政課	事業実施(予定)年度	平成27~令和元年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 Ⅲ-1-(1)							
事業内容	まつりを通して地域産業・芸能・文化の振興を図り、県内外からの誘客に繋げて地域活性化に資するため、西原まつりを開催する。											
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)											
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()											
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	H27年度	15,309	H28年度		H29年度		H30年度		R1年度	14,349
		(b) 予算現額	15,309									13,910
		(c) 増減額(b-a)	0									▲ 439
		(d) 繰越額	-									-
	A. 計(b+d)		15,309									13,910
	B. 執行済額		15,230									13,910
	うち交付金充当額		12,183									11,128
	次年度繰越額		0									0
	執行率(%) (B/A)		99.5%									100.0%
	予算の状況の説明		補助交付は当初計画していたとおり実施した。 4月から予定していた臨時職員の配置が7月からとなったため、事業費439千円を減額した。									
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況										
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度						
		西原まつりの開催の支援	目標	()	()	()	(支援)					
		実績				支援実施						
		目標	()	()	()	()						
	実績											
達成状況説明	西原まつり実行委員会に補助金交付を行い、まつり開催にかかる運営費用負担の支援を図った。											
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)						
		まつり来場者数 37,000人	目標	()	()	(37,000人)	()					
		実績				32,200人						
		目標	()	()	()	()	()					
	実績											
	進捗状況説明	西原まつりの来場者数は32,200人であり、目標値を下回る結果となった。要因としては、開催日が沖縄県産業まつりと重なり、来場者が分散した可能性が考えられる。 なお、平成27年度の西原まつり来場者実績29,507人は上回っており、広報周知活動の効果はあったと考えている。										

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 西原まつりの開催により、本町の伝統芸能である獅子舞、旗頭など、来場者へ披露することができ、地域の活性化が図られた。なお、平成27年度まつり終了後に開催日変更について、関係団体に意向調査を行ったが、各団体の事業等の変更ができる日程がなかったため、これまでの開催日で行うことになった。(開催年の10月の第4週の土曜日、日曜日) 多くの来場者が訪れ駐車場が満車となっており、駐車場所の確保が厳しい状況となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 開催日については、他のイベントの開催状況も踏まえながら、必要に応じて見直しを検討する。 駐車場の拡大には、場所と駐車係の人員確保など予算面の課題があるため、公共交通の利用の周知検討を行う。

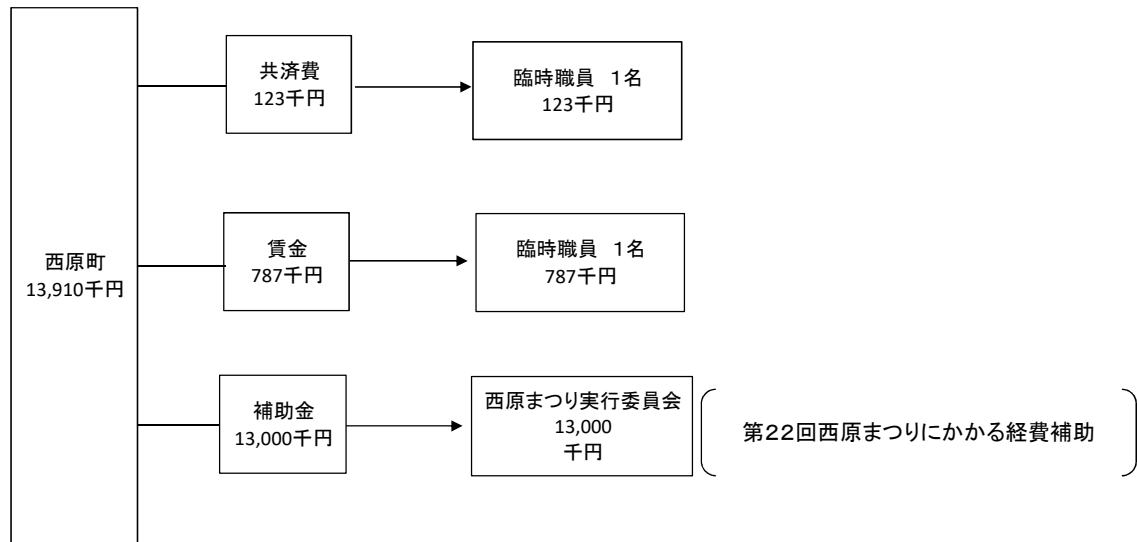
今後の取り組み方針

・開催日については、他のイベントの開催状況や関係団体の意見を踏まえながら必要に応じて見直しを検討し、西原町まつりの開催をとおして、地域産業・芸能・文化の振興と観光誘客に取り組んでいく。

・公共交通の利用について、広報紙やHP、SNS等の活用により周知を強化し、駐車場不足の緩和と来場者の安全確保を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
13,910	13,910	11,128	2,782	0



資金の 用途の 流れ、 費目 ・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・まつり実行委員会は、まつり成功に向けた町内団体等が委員として参加しており、支出先としては問題はないと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・予算規模も事業内容に見合った適正な規模であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者負担について、対象経費としてそぐわない経費(食糧費等)は、実行委員会負担としているので、妥当だと考える。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・費目、使途について、支出等に関する書類により検査を行っており、適正であった。

市町村名		西原町										
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	2-① 小学校外国語活動指導員派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(4)-ア							
	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		III-3-(1)									
担当部署名	教育部 教育総務課		事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	III-3-(1)					
事業内容	町立小学校へ外国語活動指導員を派遣し、外国語への興味・関心を高める。											
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)											
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()											
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度		H28年度		H29年度		H30年度		R1年度		
		(a) 当初予算額	1,840	1,840	1,840	4,300	4,106	(b) 予算現額	1,760	1,760	1,840	4,300
	(c) 増減額(b-a)	▲ 80	▲ 80	0	0	0	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	1,760	1,760	1,840	4,300	4,106	B. 執行済額	1,760	1,760	1,836	3,784	3,956
	うち交付金充当額	1,408	1,408	1,468	3,027	3,165	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.8%	88.0%	96.3%	予算の状況の説明	当初計画していた事業内容はすべて実施した。				
	活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況								
				H28年度	H29年度	H30年度	R1年度					
		外国語指導員2名派遣		目標 (2人)	(2人)	(2人)	(2人)					
				実績 2人	2人	2人	2人					
達成状況説明	・公募により面接を実施し、小学校外国語活動指導員2名を町内4小学校に派遣した。											
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)					
	児童生徒の外国語への興味・関心が高まったか(80%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検討する。		目標	()	()	(80%)	(80%)	()				
			実績			85%	83%					
	【参考指標】英語の授業が「好き」と答えた児童が85%以上		目標	()	(85%)	(85%)	(85%)	()				
			実績		94%	94%	92%					
	【参考指標】町内小学校英語派遣指導員派遣率100%		目標	()	(100%)	(100%)	(100%)	()				
実績				100%	100%	100%						
進捗状況説明	・児童生徒の外国語への興味・関心が高まったかどうかについては、町内4小学校の5・6年生各1クラスに対しアンケート調査をおこな い、回答を集計した結果、目標である80%以上の肯定的な評価が得られた。 ・目標を上回った要因としては、授業のなかでゲームやクイズ、歌などを取り入れた参加型の授業実践を行ったことや、電子黒板やカード教材等を効果的に活用するなどの創意工夫を行ったことに因るもの考える。											

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から効率的な指導員配置を行ったことで、授業の事前準備や学級担任との打ち合わせ時間の確保の面で改善が図られた。 ・参加型の授業実践や教材等の有効活用による授業カリキュラムの工夫・改善を図ったことで、英語に対する親しみ、学習効果は高いことがアンケート結果からみてとれる。反面、英会話や外国文化に対する消極的な面もみられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き効率的な指導員の配置を行うことで、事業の効果を高めていく。 ・これまでの取り組みを継続しつつ、英会話や外国文化について授業カリキュラムの創意工夫を図る必要がある。

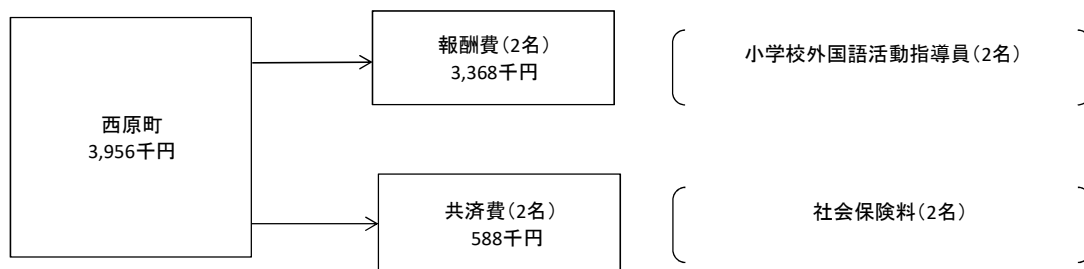
今後の取り組み方針

・学校の日課に柔軟に対応しつつ、より事業の効果を高められるよう、引き続き効率的な人員配置を行う。

・より効果的な授業実践のため、学級担任や外国語担当教諭との連携を強化して教材研究・教材作成等を行い、外国語に対する児童の積極性を高めることにつなげていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
3,956	3,956	3,165	791	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であると考えます。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○各小学校の授業数を勘案しながら、外国語指導員の活動時間を設けており、予算規模、活動時間についても、小学校の授業内容に見合った適正な規模であると考えています。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については、外国語教育に即し、事業の目的達成のため真に必要なものと判断している。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	西原町
------	-----

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-②	教育相談員配置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				豊富な心とたくましい体を育む教育の推進
				III-3-(1)

事業内容
 町教育委員会教育相談室に教育相談員を配置し、学校生活等に悩みを抱える児童生徒及び青少年やその保護者等に対して支援を行うことで、学校生活等の困難の改善を図る。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	3,840	3,840	3,840	3,840	2,880
		(b) 予算現額	3,840	3,764	3,840	3,697	2,880
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 76	0	▲ 143	0
		(d) 繰越額	—	—	—	—	—
	A. 計 (b+d)		3,840	3,764	3,840	3,697	2,880
	B. 執行済額		3,840	3,764	3,840	3,697	2,880
	うち交付金充当額		3,072	3,011	3,072	2,957	2,304
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。				

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況			
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
教育相談員配置数:3人	目標	(4人)	(4人)	(4人)	(3人)
	実績	4人	4人	4人	3人
教育委員会との会議(児童の情報共有及び情報交換他)の実施(5回以上)	目標	(4回)	(5回以上)	(5回以上)	(5回以上)
	実績	10回	5回	5回	5回
教育相談員の定期的な学校訪問	目標	()	(実施)	(実施)	(実施)
	実績		実施	実施	実施
達成状況説明	○教育相談員を3人配置した。 ○教育委員会との連絡会議を年5回開催し、都度の事務連絡等とあわせて、児童生徒の情報共有を図った。 ○学校訪問を小中学校6校全体で216回訪問し、学校との連携維持に努めた。				

成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		相談員が関わった児童生徒のうち、学校生活への適応や状況改善に向けて変容が確認できた人数の割合 28%以上	目標	()	(10%以上)	(28%以上)	(28%以上)
	進捗状況説明	実績		28.40%	28.07%	35.71%	
○相談員が関わった児童生徒のうち、学校生活への適応や状況改善に向けて変容が確認できた人数の割合は小・中学生全体で35.71%(小学生21.88%、中学生47.37%)だった。 成果目標を上回った要因としては、相談員の取組に加え、スクールソーシャルワーカー(SSW)、スクールカウンセラー(SC)、こども課などの関係機関との連携強化を図ったこと、また、家庭訪問や三者面談等の学校行事にあわせて教育相談室の案内チラシを配布するなど相談室の周知を図ったことなどが考えられる。 ○小学生においては早い段階(登校渋り)から発見し、対策を立てることで状況改善に向かう傾向が見られた。一方、中学生においては不登校の状態が膠着化する傾向が見られるものの、3年生になると生徒のなかには卒業後の進路を意識した行動を行うことにより不登校に改善傾向がみられるケースもあった。							

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①小学生においては、登校しぶりや不登校が、中学生よりも改善されやすい傾向にある。ただし、小学生の段階で不登校が長期化すると、その後の中学生での改善は難しくなる傾向がある。</p> <p>②中学生においては、不登校の状態が膠着化しており、状況改善に向かった割合は小学生と比較すると低い傾向にある。</p> <p>③児童生徒や保護者のその時々状態により、改善状況が一進一退する傾向がある。</p>	<p>①小学生においては登校しぶりや不登校を未然に防ぐため、「気になる」段階からの早期対応、取組を行う必要がある。</p> <p>②中学生においては学年に応じた取組をおこなう必要があると考える。まず1年生については、問題行動に発展する前の“早期発見・未然防止”の対策を強化し、2年生については関係機関との連携を密にして情報共有を図りながら、“見守り・寄り添い”の姿勢で支援を継続していく必要がある。3年生は受験生ということもあり、将来の進路に対する本人の自覚の芽生えや行動を促すような働きかけ・支援の強化が必要と考える。また、学校訪問をより効果的に活用し、教職員との共通理解を図り情報共有を密におこなう必要がある。</p> <p>③問題解決のためには児童生徒のみならず、保護者への支援・働きかけも重要であるとする。</p>

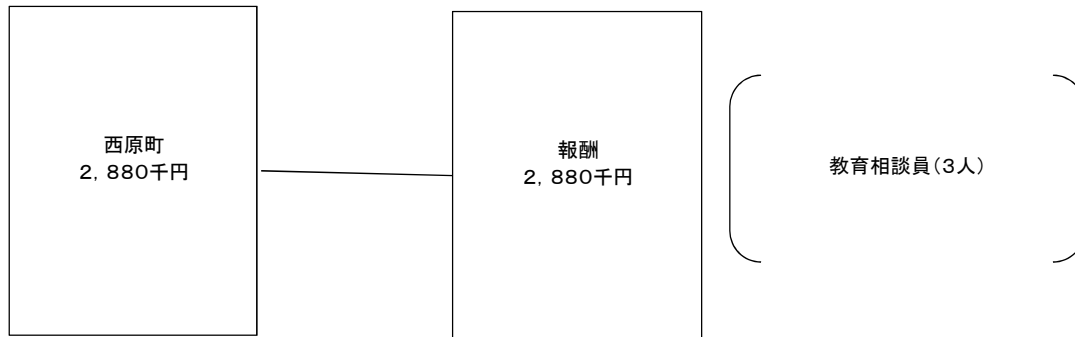
今後の取り組み方針

①②引き続き学校、教育委員会などの教育機関や、こども課、福祉事務所などの関係機関との連携強化・維持を図り、問題行動に発展する前の“早期発見・未然防止”の取組を強化していく。また、相談業務や学校訪問のほか、必要に応じて家庭訪問をおこない、児童生徒や保護者の状況を確認し、寄り添った支援をおこなう。

②保護者への支援のアプローチとして、教育相談室について広報誌やチラシ等により周知強化を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

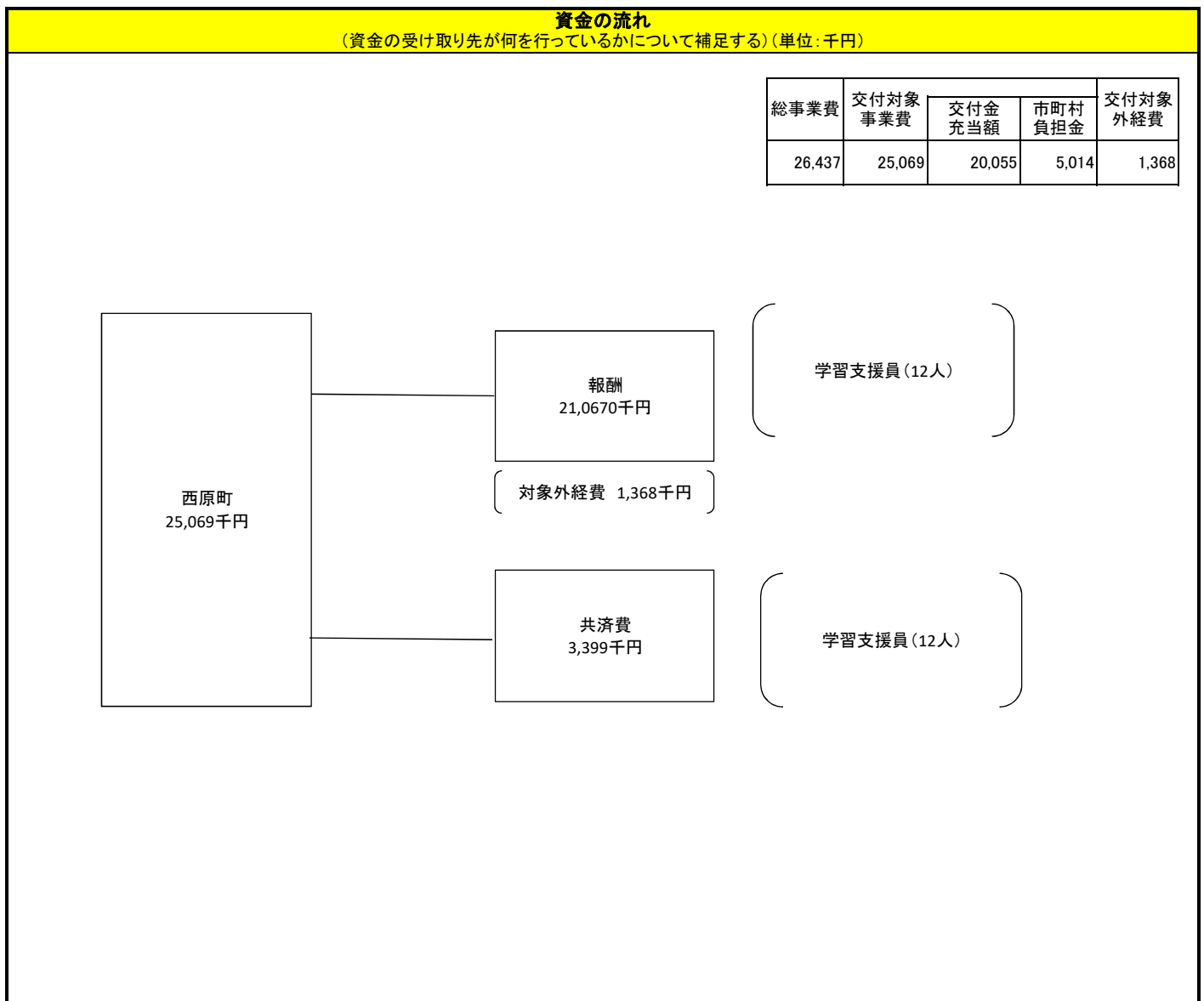
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,880	2,880	2,304	576	0



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○教育相談員は青少年の教育に関して豊かな識見を有する者に対して委嘱しており妥当であるとする。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は事業内容は見合った適性規模であったと考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については、出勤簿及び毎月の活動報告書、児童来室状況報告書にて確認し、事業目的に合致していると判断している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③		学習支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育部 教育総務課		事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度		確かな学力を身につける教育の推進	
事業内容	学習支援員を小中学校に配置し、各児童生徒の学力に応じた個々の学習指導を行うことにより、児童生徒の学力向上を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	39,680	39,687	39,750	26,552	26,554
		(b) 予算現額	39,680	39,687	39,610	26,552	26,554
		(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 140	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	39,680	39,687	39,610	26,552	26,554
	B. 執行済額		39,503	38,864	39,063	25,927	25,069
	うち交付金充当額		31,601	31,090	31,249	20,741	20,055
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.6%	97.9%	98.6%	97.6%	94.4%
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した。不用額は、3月の新型コロナウイルス感染症による臨時休校により対象外経費が生じたことによる。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	学習支援員配置(全小中学校配置) 小学校: 8人 中学校: 4人		目標 (小学校:12人 中学校:6人)	(小学校:12人 中学校:6人)	(小学校:8人 中学校:4人)	(小学校:8人 中学校:4人)	
			実績 小学校:12人 中学校:6人	小学校:12人 中学校:6人	小学校:8人 中学校:4人	小学校:8人 中学校:4人	
			目標 ()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	予定通り、小学校4校へ2名ずつ計8名を配置、中学校2校へ2名ずつ計4名を配置することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	・沖縄県学力到達度調査における平均回答率の県との差 小学校: 国語 +2.5以上 算数 +4.0以上 中学校: 国語 -0.8以内 数学 +1.0以上		目標 ()	(国語 +1.8以上 算数 +2.8以上 国語 -0.2以内 数学 +1.0以上)	(国語 +1.8以上 算数 +2.8以上 国語 -0.2以内 数学 +1.0以上)	(国語 +2.5以上 算数 +4.0以内 国語 -0.8以内 数学 +1.0以上)	()
			実績	国語 +2.55 算数 +4.38 国語 -1.60 数学 +2.05	国語 +1.60 算数 +1.50 国語 -3.10 数学 +2.75	国語 +4.25 算数 +3.65 国語 +1.00 数学 +4.75	
進捗状況説明	・小学校においては、学習支援員と学級担任が連携し、取り組んだ結果、国語で4.25ポイント、算数で3.65ポイント県平均正答率を上回ることが出来たが、算数は目標値にやや届かなかった。 ・中学校においても、学習支援員と学級担任が連携し、学力向上を図り、国語で1.00ポイント、数学で4.75ポイント県平均正答率を上回る結果となり、課題であった国語を含め目標を十分に達成した。						

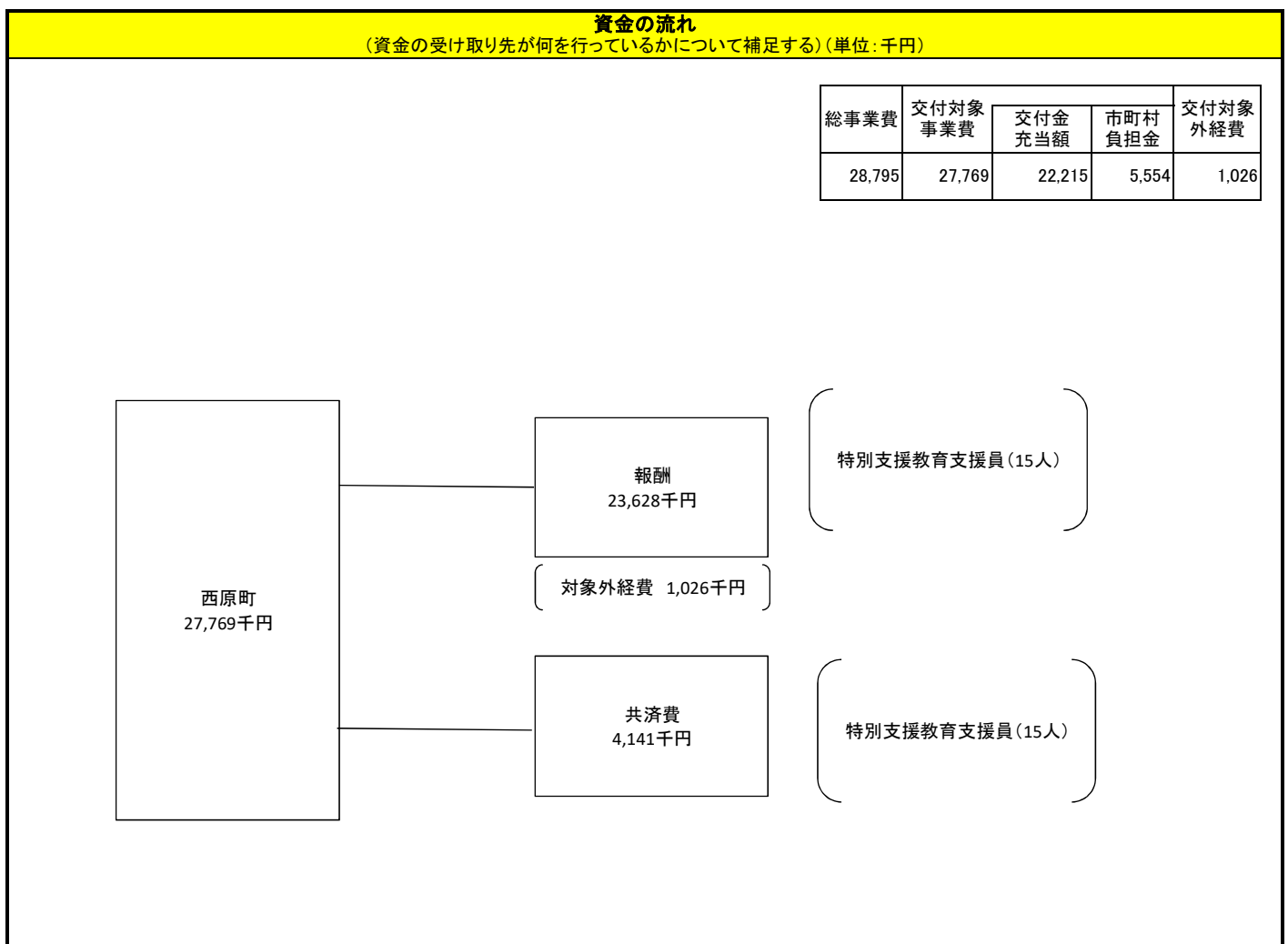
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>・今年度は沖縄県の平均と比較し、小中双方で一定以上の成績を収めることができた。各学校において課題意識を持ち、授業による全体支援と、補習等による全体の底上げを主とした個別指導に継続的に取り組んできた成果であると考える。</p>	<p>・全体としての取り組みを継続しつつ、個々の児童生徒について経年での把握を行うことで、より効果的な支援が可能と考える。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・児童生徒の経年的な変化をより把握するための仕組みを町教育委員会学務係で検討し、より効果的な支援を行うことで学力の向上を図る。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は公募により実績、知識等を勘案した上で選定しており、賃金については適正な手続きで執行された。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、実績や現状に合わせて定めており適正な規模であったが、執行率については、新型コロナウイルス感染症による臨時休校により対象外となった経費が生じた。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については毎月の報告書にて確認し、事業目的に合致していると判断している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	特別支援教育支援員配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
担当部署名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成25～令和3年度		沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	特別支援教育支援員を小中学校に配置し、特別な支援を要する障害がある児童生徒に対応した支援を行うことで、学校生活や学習上の困難の改善を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	32,614	26,063	26,129	26,185	30,324
		(b) 予算現額	25,799	25,653	21,163	26,185	28,925
		(c) 増減額(b-a)	▲ 6,815	▲ 410	▲ 4,966	0	▲ 1,399
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)		25,799	25,653	21,163	26,185	28,925
	B. 執行済額		25,791	25,546	19,745	25,370	27,769
	うち交付金充当額		20,632	20,436	15,795	20,296	22,215
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.6%	93.3%	96.9%	96.0%
予算の状況の説明		当初、支援員15名を配置する計画であったが、応募がなく8月までは14名の配置となったこと、また、年度途中で退職者がいたことから、事業費1,399千円を減額した。 不用額は、3月の新型コロナウイルス感染症による臨時休校により対象外経費が生じたことによる。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	特別支援教育支援員配置数 小中学校:15人	目標	(13人)	(10人)	(13人)	(15人)	
		実績	13人	10人	13人	15人	
支援員の資質向上のために、内部研修を実施	目標	(2回)	(4回)	(4回)	(4回)		
	実績	4回	4回	2回	2回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の支援を要する児童生徒の実情に合わせて小学校に特別支援教育支援員を12人、中学校に3人を最終的に配置し、対象児童生徒に対して支援を行うことができた。 特別支援教育支援員研修会については、4回を予定していたが、現場の業務の都合等により2回の実施となった。支援員間の有意義な情報交換により、児童生徒に対する対処方法を共有し、充実した支援につなげることが出来た。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	・年度末に実施する支援対象児の状況調査において、改善がみられた児童数を30%以上	目標	()	()	(30%以上)	(30%以上)	()
		実績			65.9%	75.4%	
	【参考指標】 ・対象となる児童生徒の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度80%以上	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	()	()
実績			93.9%	81.8%			
進捗状況説明	今年度から、支援を受けた児童生徒の状況調査において、改善がみられた割合を成果目標としている。 調査の結果、次年度からの支援が不要になるなどの改善がみられた割合が9.4% 一定の改善がみられた割合が66.0%で、合わせて75.4%の児童生徒に改善がみられ、目標値を達成した。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>調査の結果、4人に3人が改善の傾向にあり、本事業による一定の成果は出ていると考えられる。しかしながら、やや悪化したという割合が1.9%、変化なしとの割合が22.6%あり、4人に1人は変化がない状態にある。 必要な数の支援員を年度当初から確保できておらず、質・体制の両面で課題があるとする。</p>	<p>特別支援教育支援員の他に、専門性を持ち、指導・助言ができる人材を登用し、支援員に対する研修を行い、質の面から強化する。</p>
今後の取り組み方針		
<p>新たに心理士を配置し、専門的な立場からの支援員への研修を実施し、支援員の資質向上に取り組み、対象児童へのより充実した支援につなげる。</p>		



資金の流 れ、費 目・ 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は公募により実績、知識等を勘案した上で選定しており、賃金については適正な手続きで執行された。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、実績や現状に合わせて定めており適正な規模であったが、執行率については、新型コロナウイルス感染症による臨時休校により対象外となった経費が生じた。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については毎月の報告書にて確認し、事業目的に合致していると判断している。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-⑤ 幼稚園特別支援教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ			
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成26~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進		
事業内容	特別な支援を必要とする障がいがある園児に対し、特別支援教育支援員を配置することで、園児一人ひとりの特性やニーズに沿った支援を展開し、学園生活の困難の改善を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	19,806	26,458	26,500	30,977	42,468
		(b) 予算現額	19,806	22,377	23,838	28,764	35,750
		(c) 増減額 (b-a)	0	▲ 4,081	▲ 2,662	▲ 2,213	▲ 6,718
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	19,806	22,377	23,838	28,764	35,750
	B. 執行済額		19,487	21,750	23,811	27,764	35,264
	うち交付金充当額		15,589	17,399	19,048	22,211	28,211
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		98.4%	97.2%	99.9%	96.5%	98.6%
予算の状況の説明		当初、18名の支援員を配置予定であったが、支援を必要とする園児数が想定より少なかったこと、また、一部の支援員の入れ替わりや欠勤等があったことにより、当該人員分及び期間分に係る事業費の減額等が生じている。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	特別支援対象児の人数に応じた支援員の確保	目標	(11名)	(11名)	(14名)	(確保)	
		実績	11名	11名	13名	15名確保	
	支援計画で集団生活の目標を立て、支援児一人一人に対して適切な支援を実施	目標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実績		実施	実施	実施	
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 支援を必要とする園児の数が想定より少なかったため、当初18名を予定していた支援員の配置が15名となった。 支援員の業務内容について、日誌による記録のほか、支援児ごとの個別指導計画を作成し、ねらいや支援の手立てを設定することで、支援内容を明確にし、支援児の特性やニーズに沿った支援が実施できた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	対象となる園児の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、本事業のあり方について検証する。	目標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()
		実績		94.80%	96.90%	98.92%	
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 支援児に対して支援員を適正に配置できたことで、支援児の特性やニーズに沿った丁寧な支援を行うことができた。 支援児ごとに個別指導計画を作成し、園・担当支援員・保護者等で支援内容を共有することで、学園生活のみならず、家庭生活においても支援の必要性について共通認識が図られ、支援員配置に対する保護者満足度を98.92%とすることができ、目標が達成できた。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から報酬額の改善を行ったことで、従前と比較して、早期の人員確保(前年度からの継続等)が図られたが、支援児数が増傾向であることや保育士や幼稚園教諭等の人材不足の解消もなされていないことから、今後も人員確保が難航することが予想される。 ・園(支援員)と保護者との間で特別支援教育に対する共通理解が十分でない場合、保護者の意向と支援内容に温度差が生ずることがあるため、保護者への理解促進を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援児の認定機関(こども課所管)との情報交換を密に行い、早期の求人業務に取り組む。また、同職種について、会計年度任用職員制度導入後の勤務条件や報酬等の情報を収集し、必要に応じて人員確保に向けた処遇改善を検討する。 ・特別支援教育に対する園(支援員)と保護者との共通理解を深めるために、個別指導計画の内容について、十分な読み合わせや保護者ヒアリングなどを行い、保護者がどのような情報を知りたいのかなど、より詳細なコミュニケーションを図ることで、園と家庭が一貫した、より良い支援環境を整える。

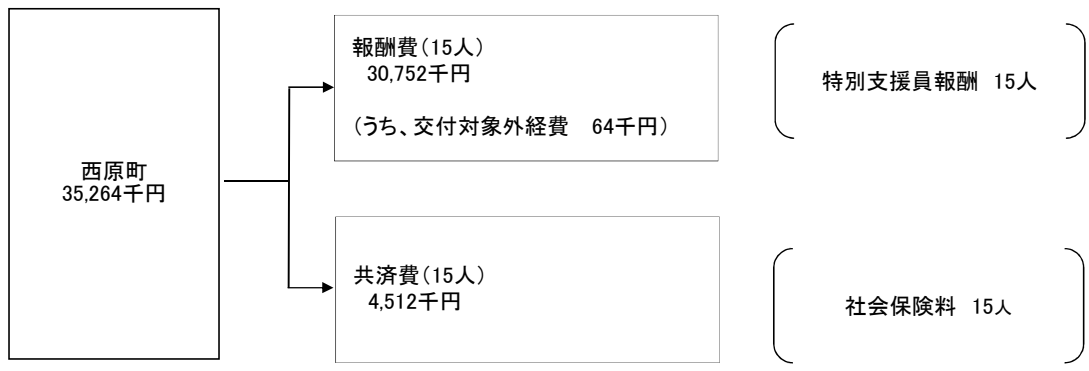
今後の取り組み方針

・支援員の確実な確保に向け、園や関係機関との情報共有や入園前の園児等の情報収集を強化するとともに、同職種の勤務条件や報酬等の情報を収集・整理しながら、必要な対応を行う。

・引き続き、支援内容について園(支援員)と保護者との共通理解・情報共有が図れるよう、個別指導計画の共有や取り組みに対する情報交換、日常的な意見交換などに取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
35,328	35,264	28,211	7,053	64



資金の流 れ、 点 検 評 価 目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は履歴書及び面接により、適切な人員を選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模に関しては、町の保育所報酬及び他の市町村の類似事業の状況を確認し設定しており、適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については幼児教育に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	3-①		親子通園事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ		
	担当部課名	福祉部 健康支援課		事業実施(予定)年度	平成28~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実	
事業内容		乳幼児健診等の結果から、支援の必要性が高い発達の気になる子と保護者の受け入れを行い、日常生活における基本動作の指導や集団生活への適応の訓練及び保護者に対する療育上の助言等を行うことで、保護者の育児不安の軽減を図る。					Ⅲ-4	
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,030	7,030	7,000	7,000	7,000	
		(b) 予算現額	5,122	7,030	7,000	7,000	7,000	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,908	0	0	0	0	
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
		A. 計(b+d)	5,122	7,030	7,000	7,000	7,000	
	B. 執行済額		5,121	6,612	6,234	7,000		
	うち交付金充当額		4,096	5,289	4,987	5,600		
	次年度繰越額		0	0	0	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	94.1%	89.1%	100.0%		
予算の状況の説明		当初計画していた通り執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	親子通園受け入れ:8組		目標	()	()	(8組)	(8組)	
			実績			9組	10組	
	【参考指標】 発達相談		目標	(発達相談)	(発達相談)	()	()	
			実績	実施した	実施した			
達成状況説明	全体の受け入れ(登録)8組を予定していたが、今回、必要性の高い親子が10組となったため、委託先とも協議した結果、全体の受け入れ(登録)ではなく、1日の受け入れを8組として実施した。 また、対象者全員の保護者と個別面談の機会を持ち、子どもの発達状況を確認しながら相談に対応した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	対象となる児童の保護者へのアンケートで、育児不安の軽減が図られたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。		目標	()	()	(80%)	(80%)	()
			実績			100%	100%	
	【参考指標】 ・保護者の育児不安の軽減(アンケート実施 50%以上)		目標	()	(50%)	()	()	()
			実績		70%			
	進捗状況説明	令和2年2~3月に対象となる児童の保護者へアンケートを実施した。対象となる保護者数は10組であり、回答のあった保護者8名中、2名が育児不安について「とても軽減された」、6名が「軽減された」と回答しており、成果目標を達成できているものと考えている。全保護者に、アンケートへの回答を求め、回収依頼を行っているが、保護者の異動等多忙であったこと及び新型コロナにおける本事業自粛の影響で、2組の保護者からはアンケートの回収ができていない。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は、支援を必要とする児童が多く、例年よりも多く相談支援が行われたが、本事業の必要性が高い利用者に対して、療育経験のある保育士等が個々の状況に応じた適切な支援を実施することで、目標を達成することができた。 また、保育所及び児童館等の団体との調整会議を実施し、昨年度の課題であった他機関との交流を増やすことができた。 課題としては、今回、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和2年3月における事業実施回数が減り、次年度にむけた幼稚園等との会議日程が取れず、調整会議等による児童への適切なフォローを実施することが困難となったことがあげられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業に関しては、概ね本町が求める水準での実施ができていていると考えている。委託事業者とは、本事業における目的の共有や事業内容の検討を行い、引き続き丁寧な事業実施を行ってきたい。 新型コロナウイルスに関する課題に関しては、本事業のみで解決できるものではないが、進級に伴う保護者の不安軽減のために、あらかじめ保護者等と意思疎通を図っていききたい。

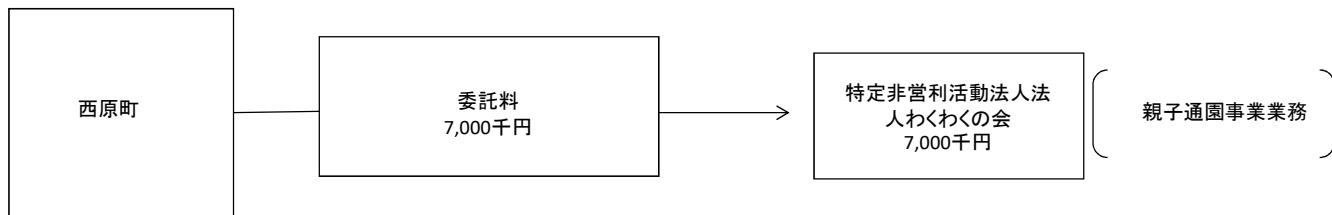
今後の取り組み方針

・今後も親子の状況に応じた丁寧な支援、個別相談やアンケートの実施等による丁寧な関わりの継続、委託事業者との密な連携により、保護者の育児不安の軽減を図る。

・新型コロナウイルスの今後の状況によっては、事業が休止となる可能性があるため、登園ではなく電話等における相談支援や関係機関との調整など、そのような事態となった場合の対応について、前もって保護者や関係機関との情報共有を行う。併せて、新型コロナウイルス感染症対策として、登園前の健康管理(検温等)、入室前の手指消毒、スタッフの健康管理を実施する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
7,000	7,000	5,600	1,400	0



資金の流れ、点検、評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名型プロポーザル方式で選定しており、委託内容として専門的な知識や技術を必要とすることから鑑みても妥当であったと考える。 ○事業内容に見合った適正な規模であった。 ○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、事業を実施するうえで、目的に沿った支出であり、適正であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-①	西原町防犯灯・道路灯LED化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
担当部署名	建設部 土木課	事業実施(予定)年度	平成29～令和2年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進	
事業内容	本町が進めるエコへの取り組みを推進するため、町内の防犯灯・道路灯を環境負荷の少ないLED照明に切り替え、温室効果ガスの排出を抑制する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	7,128	40,000	20,000		
		(b) 予算現額	7,128	36,645	19,882		
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 3,355	▲ 118		
		(d) 繰越額	0	0	0		
	A. 計(b+d)	7,128	36,645	19,882			
	B. 執行済額	6,848	36,645	19,882			
	うち交付金充当額	5,477	29,315	15,906			
	次年度繰越額	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)	96.1%	100.0%	100.0%			
予算の状況の説明	入札残により事業費118千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
	防犯灯・道路灯LED化工事(約130基)	目標	()	(約300基)	(約130基)	()	
		実績		263基	205基		
	【参考指標】 調査設計業務の実施	目標	(調査設計業務の実施)	()	()	()	
実績		調査設計業務の実施					
達成状況説明	当初、木柱は、腐食等を考慮して鋼管柱に建て替える予定であったが、腐食防止が施されており劣化が少なかったため、灯具の切り替えのみとし、建柱は行わなかった。そのため、他箇所の灯具取り替え基数の増とする設計変更を行い、205基を整備した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
	防犯灯・道路灯のLED化によるCO2排出量の削減目標値:33,206kg-CO2	目標	()	()	(90,951)	(33,206)	()
		実績			80,548	99,740	
	【参考指標】 調査設計業務の完了	目標	()	(調査測量設計業務の実施)	()	()	()
実績			調査測量業務の実施				
進捗状況説明	設計変更による、取り換え基数の増に加え、LED灯具の技術の進展により、設計と性能は同等で省電力の器具を採用したため、目標値を大幅に上回る結果となった。						

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 設計は灯具の容量を40VAとしていたが、日本防犯設備協会の指標を参考にし発注した結果、20VAの灯具を採用することとなったため、目標値を大きく上回った。 今回、鋼管柱の建柱を予定していた箇所、風荷重に耐えられるような基礎となるよう地質調査を行ったが、いずれの地点においても設計時のN値が得られなかったため、地盤改良や、基礎形状の再設計が必要となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 灯具の容量を下げたことにより、消費電力も下げられ、CO2排出量の大幅削減につながったので次年度も同様に事業を推進したい。 N値が得られない箇所については、費用面を考慮し、同箇所を照らすよう、近くの電柱に共架する等の工夫が効果的である。
	今後の取り組み方針	
<p>・今後は、令和元年度事業の取組を継続するとともに、自治会へ電気料金のみ助成している一部の外灯を町に移管してLED化を進め、温室効果ガスの排出を抑制しエコへの取り組みを推進する。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	19,882	19,882	15,906	3,976	0
<pre> graph LR A[西原町 19,882 千円] --> B[工事請負費 19,710 千円] A --> C[委託料 172 千円] B --> D[株式会社 電装技研 19,710 千円] C --> E["(一財)建設物価調査会 172 千円"] D --- F[西原町防犯灯・道路灯LED化工事 その3] E --- G[二次製品価格特別調査 (西原町防犯灯・道路灯LED化工事)] </pre>					
資金の流点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明		
資金の流点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。		
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく、予算規模については適正な規模であったと考えている。		
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。		
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名	西原町
------	-----

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-①	農家経営安定支援事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-エ 農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化
担当部署	建設部 産業観光課	事業実施(予定)年度	平成26～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所
				III-1-(6)

事業内容
栽培技術指導・農家経営相談のための営農指導員を配置し、既存農家へ個別による営農指導及び、町役場にて農家や農業就農を検討されている方々へ園芸セミナーを開催することで、栽培技術向上による高品質農産物の安定生産と農業経営の改善による農家経営の安定を図るとともに農業後継者の育成を図る。

効果発現年度
 当年度 後年度(年度)

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他()

		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況 (a) 当初予算額	3,448	4,132	4,105	4,234	4,309
	(b) 予算現額	3,187	4,132	4,267	3,870	4,309
	(c) 増減額(b-a)	▲ 261	0	162	▲ 364	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計(b+d)	3,187	4,132	4,267	3,870	4,309
	B. 執行済額	3,186	4,025	4,190	3,637	3,942
	うち交付金充当額	2,548	3,219	3,351	2,909	3,153
	次年度繰越額	0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	97.4%	98.2%	94.0%	91.5%
	予算の状況の説明 指導員を当初計画通り2人配置できた。 当初、情報誌「農と食」を製本し配布する予定であったが、ホームページでの閲覧も併用することで印刷製本費が縮減され、不用が生じた。					

活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況			
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
指導員の配置2名	目標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)
	実績	2名	2名	2名	2名
年5回の農業講習会の開催	目標	(6回)	(5～6回)	(6回)	(5回)
	実績	7回	6回	5回	5回
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 指導員については、予定通り年間で2名を配置し、既存農家へ個別による営農指導を行った。 農業講習会については、町役場にて農家や農業就農を検討されている方々を対象に園芸セミナーを5回開催した。 実証圃に関しては、パブリカ・中玉トマト・ナス・パッションの新品種に特化した。令和2年6月頃まで出荷ができることから、引き続き追跡中である。 				

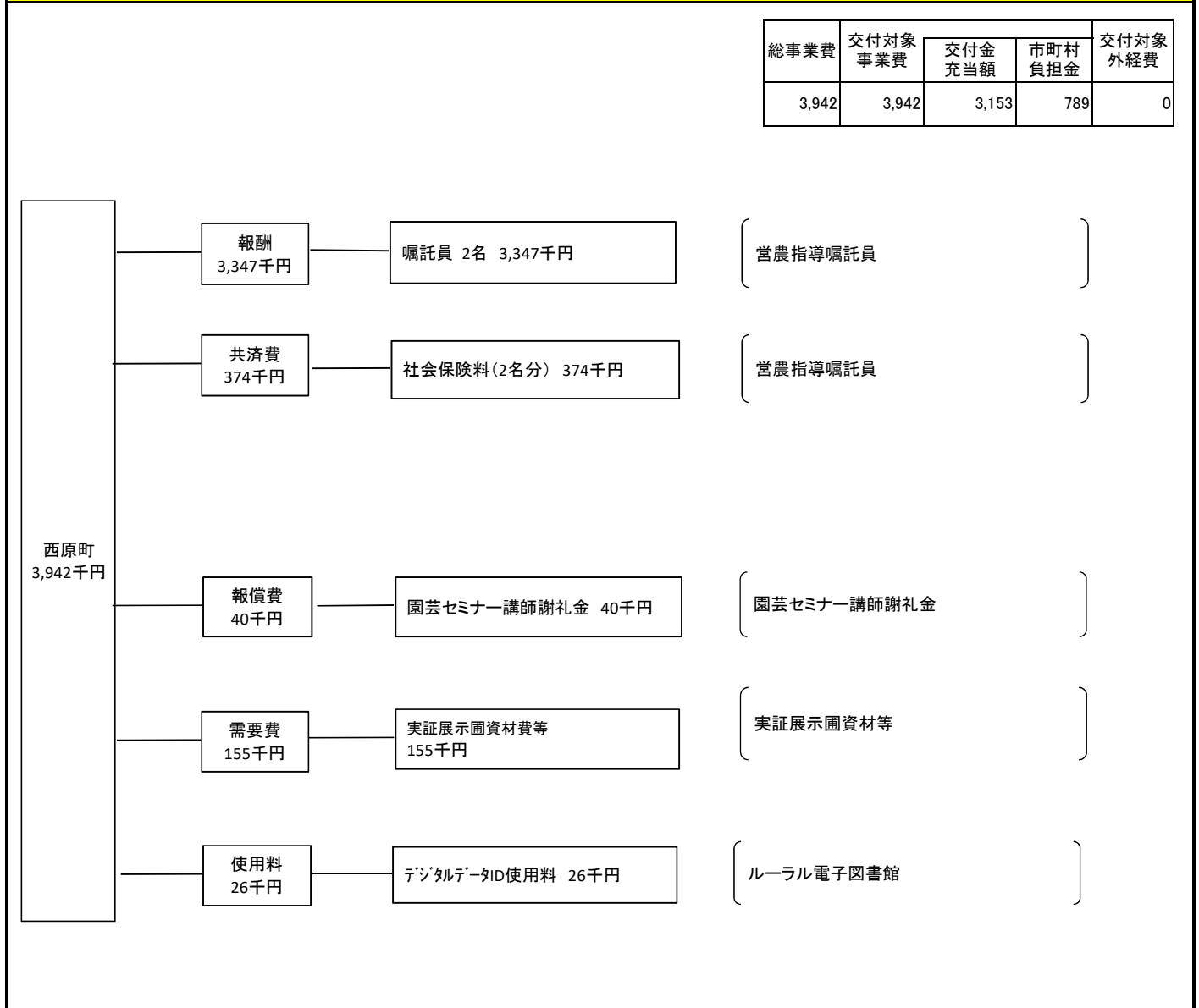
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
		・園芸セミナー参加者へのアンケート栽培技術への理解が深まったか(80%以上)を含め、アンケート調査により本事業のあり方を検証する。	目標 () 実績	()	()	(80%以上)
・巡回指導した農家へのアンケート栽培技術力が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査により本事業のあり方を検証する。	目標 () 実績	()	()	(80%以上)	(80%以上)	()
【参考指標】 農家への経営指導及び技術支援の実施。	目標 () 実績	()	()	(-)	(-)	()
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 園芸セミナーの参加者へ栽培技術への理解が深まったかについてアンケートをとったところ、満足したと回答した方の割合は80%であり、目標を達成できた。 巡回指導した農家へのアンケートでも、満足したと回答した方の割合は83%であり、目標を達成できた。 栽培指導では、のべ年間559件の指導を行った。 個別訪問やセミナー、月1回の情報紙の発行などの活動を通して、技術支援や情報を提供した結果、新規就農者や認定農業者の増加にもつながっている。 					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・高品質農産物の安定生産のため、町の重点品目を確立させる必要があり、現在、重点推進品目の選定等を行う「青果物ブランド推進協議会(仮)」の結成に向け、要綱作成や近隣直売所に西原町の成果物がどのくらい出荷されているかを調査中である。 ・西原町では土壌の関係などで、果樹を栽培する農家が少ない。加工も含め6次産業につながる果樹を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推進協議会の結成及び重点推進品目については、本町だけでなく農家・JA・関係機関と協力し、勉強会や視察研修等を充実させ検討していく必要がある。 ・H30年度に、町内で2農家がジャーガル土壌では作りにくいと言われるパッションフルーツを栽培し、3t以上生産していることを確認している。R1年度は新しく2農家に栽培をお願いし、4農家がパッションフルーツを栽培しており、今後も栽培農家を増やしていけるのではないかと考える。

・令和7年度までに「青果物ブランド推進協議会(仮)」が結成できるよう、販路や出荷状況を調査し、関係機関と連携をとりながら重点品目を選定し、高品質農作物の安定生産に取り組む。

・西原町のパッションフルーツの収量を増やし、6次産業へつなげていくため、果樹農家に対し、県普及センター職員が行うパッションフルーツ研修会への参加や、農家同士での勉強会を促し、栽培技術を向上させ、直売所・ふるさと納税等での販路拡大を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ 点 検 ・ 費 目 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指導員は知識等を勘案した上での採用をしており、適正な手続きで執行できたと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○若干の不要額が発生したが、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については事業執行の目的に即し、必要なものであったと判断している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町						
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6-①		里道及び水路の境界確定復元事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(5)-イ		
	担当部署名	土木課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	戦後処理問題の解決 III-10-(2)		
事業内容	戦後、地籍が確定しないまま家屋等が建築された箇所が多々あり、境界問題の解決や公共用地の適正な管理を行うため、境界復元の確定測量及び表示登記を実施する。不明確な里道及び水路の位置を確定することで、災害時の避難経路整備計画を策定し、避難経路の整備を行う。							
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R5年度)							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	58,700	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
		(b) 予算現額	58,610	5,000	4,523	5,000	5,000	5,000
		(c) 増減額(b-a)	▲ 90	0	▲ 477	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	58,610	5,000	4,523	5,000	5,000	5,000
	B. 執行済額		58,510	4,990	4,523	4,968	4,939	
	うち交付金充当額		46,808	3,991	3,617	3,974	3,951	
	次年度繰越額		0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		99.8%	99.8%	100.0%	99.4%	98.8%	
予算の状況の説明		事業計画どおり執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況					
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	・確定測量の実施	目標	(4級基準点13基)	(里道5筆,水路1筆)	(里道7筆)	(里道7筆)		
		実績	4級基準点13基	里道5筆,水路1筆	里道8筆	里道10筆		
	・表示登記申請の実施	目標	(表示登記6筆)	(里道5筆,水路1筆)	(表示登記7筆)	(表示登記7筆)		
実績		表示登記7筆	里道5筆,水路1筆	表示登記8筆	表示登記10筆			
達成状況説明	確定測量を行い、里道10筆について表示登記を実施し、目標を達成した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(H30年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(R5年度)	
	・確定測量の完了	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	()	
		実績		完了	完了	完了		
	・表示登記申請の完了	目標	()	(完了)	(完了)	(完了)	()	
		実績		完了	完了	完了		
進捗状況説明	【R5成果目標】令和5年度までに西原町内全域の里道及び水路のうち、小那覇地内の境界測定測量を完了させ、確定した里道及び水路を基に避難経路の検討及び整備計画を行い、災害時の避難経路整備を目標としたハード対策に繋げる。							
進捗状況説明	確定測量を及び表示登記申請を完了し、目標を達成した。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・現況と公図との境界に相違が多数あり、業務で得られた成果を精査した上で、適正な土地利用を検討する必要がある。 ・当該地域は多くの地権者を有する工業地域であり、建物も建っていることから、境界の立会及び調整は、企業の理解や協力も必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里道上に建物等が建っている箇所があれば地権者や企業等へ里道の付け替えや用途廃止の説明を行い、共通認識を図る。共通認識を持つことで適正な土地利用を図る。 ・早期に地権者や企業等へ説明を行い、理解や協力を得ながら事業を進めていく。

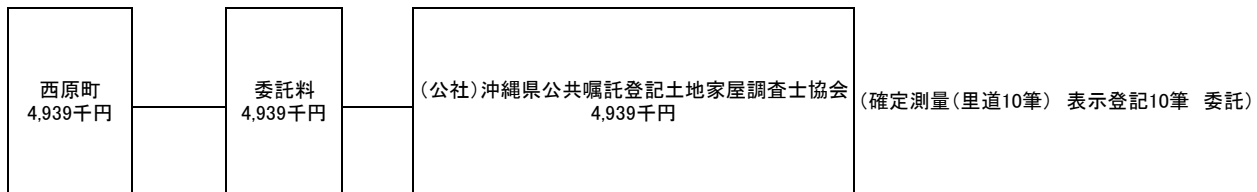
今後の取り組み方針

・里道上に建物等が建っている箇所を把握し、地権者や企業等へ今後の里道の付け替えや用途廃止の説明を行い、共通認識を図る。その後、土地利用の検討を行い、適正な財産管理を行う。

・早期発注を行うことで、地権者や企業等へ当該事業について早めに周知し理解や協力を求め、境界点の立会及び調整等に要する時間及び労力の平準化を図り、スムーズな事業実施につなげる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,939	4,939	3,951	988	0



資金の流 れの点 検・費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○随意契約で、妥当であったと考えている。(沖縄県公共嘱託登記土地家屋調査士協会は、筆数・面積・立会等を調査士毎に一括管理することで円滑な対応が可能であるため。) ○不用額は事業費の5%以内であり適正な規模であった。 ○費目、用途については完了検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

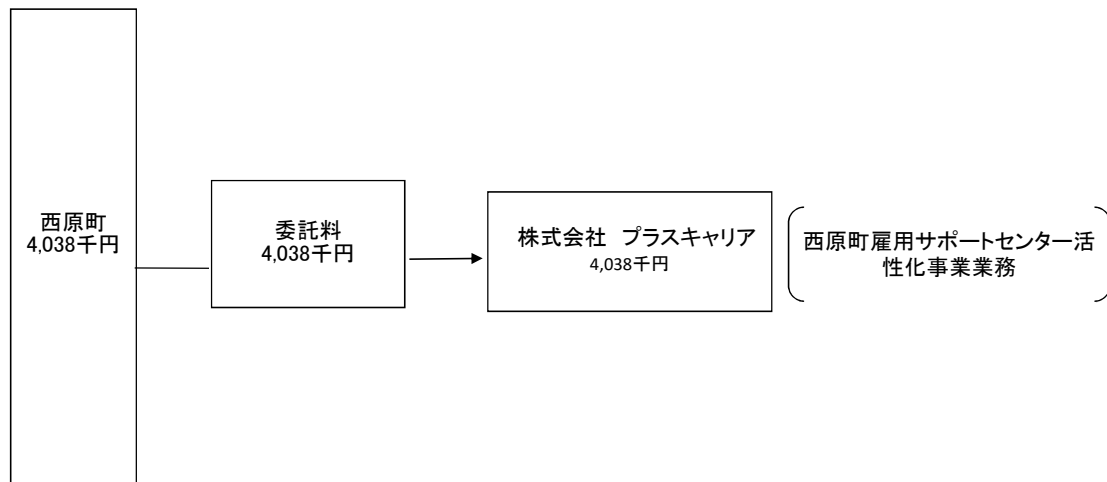
市町村名		西原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-① 西原町雇用サポートセンター活性化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(10)-ア		
	担当部署名	建設部産業観光課	事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援	
事業内容	求人企業に既存支援制度の活用に向けた助言等を行い、求職者と企業のマッチング、就職セミナーやスキルアップ講座を開催することで、雇用の拡大を図る。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	5,460	5,293	5,293	4,303	4,038
	(b) 予算現額	5,460	5,293	5,293	4,303	4,038	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	5,460	5,293	5,293	4,303	4,038	
	B. 執行済額	5,044	5,293	5,293	4,298	4,038	
	うち交付金充当額	4,034	4,234	4,234	3,438	3,230	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	92.4%	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	
予算の状況の説明		当初計画していた通り執行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	求職者と企業のマッチング	目標	(20件)	(30件)	(30件)	(30件)	
		実績	59件	79件	47件	140件	
	スキルアップ講座等	目標	(24回)	(16回)	(33回)	(30回)	
		実績	56回	61回	34回	32回	
達成状況説明	<p>求職者と企業のマッチングについては、丁寧な対応やこれまでの実績などから雇用サポートセンターへの利用者も増え、実績を大きく上回ることができた。</p> <p>スキルアップ講座についても、求職者や企業に必要な内容を検討し、目標を上回る回数を開催できた。</p>						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)
	新規雇用割合40%以上	目標	()	()	(35%)	(40%)	()
		実績			46%	53%	
	【参考指標】新規就業者	目標	()	(8人)	(8人)	(8人)	()
		実績		36人	20人	48人	
	【参考指標】スキルアップ講座受講者数	目標	()	(40人)	(80人)	(100人)	()
		実績		211人	142人	120人	
	【参考指標】求人情報の掘り起し	目標	()	(10件)	(10件)	(5件)	()
		実績		248件	160件	187件	
	進捗状況説明	<p>効果を明確にするため、新規雇用割合40%以上という成果目標を設定した。登録者141名中新規雇用者は76名で、新規雇用割合53.9%となり、目標を達成できた。</p> <p>新規就業者数、スキルアップ講座受講者数、求人情報の掘り起こしについても、目標の件数を大きく上回ることができた。</p>					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・成果目標は達成できたが、登録者65人については新規雇用に至らなかった。理由としては、高齢であることや、業務経験がないこと、また、業種にこだわりが強く、希望以外の業種には興味を示さない利用者が多いことが上げられる。今後、新型コロナウイルス感染症の影響により失業者の増加が予想されるため、新規雇用の増に向けて対策を強化する必要がある。 ・思っていた仕事と違う、人間関係の問題等の理由により、採用後比較的早期に退職する事例が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人数を確保するため、求人情報の掘り起しに今まで以上に力を入れる必要がある。 ・継続して働いていけるよう、就職前に可能な限り業務体験の期間を設けてミスマッチを防ぐとともに、就職後のサポートに力を入れていく必要がある。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・飲食業での求人減少や運輸業での増加等、業種によって求人の波が予想されるため、経済の回復状況等も踏まえながら、企業との継続的な情報交換等により、求人情報の掘り起こしを行う。 ・就職前の業務体験によりミスマッチを防ぐとともに、就職後の雇用者、労働者双方への状況確認を行い、希望に合わない場合や問題がある場合等には、双方の間に入りサポートしていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,038	4,038	3,230	808	0



資金の流 れ 点 検 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○西原町プロポーザル実施要綱の規定に準じて公募型プロポーザル方式で実施しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく、事業内容に見合った適正な予算規模と考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については、内訳書の提出及び清算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		西原町					
令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-②		地域型就業意識向上支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア	
	担当部署名	建設部産業観光課		事業実施(予定)年度	平成27～令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	雇用機会の創出・拡大と求職者支援
事業内容		高校生及び大学生を中心に商品販売活動や商品開発及び県外視察研修を実施し、就業意識の向上を図るとともに、「西原町」を深く理解し愛着を持つ郷土愛の醸成を図る。					Ⅲ-2
	効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
		(a) 当初予算額	19,757	12,956	13,799	4,688	3,805
	(b) 予算現額	19,757	12,956	13,782	4,688	3,749	
	(c) 増減額(b-a)	0	0	▲ 17	0	▲ 56	
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0	
	A. 計(b+d)	19,757	12,956	13,782	4,688	3,749	
	B. 執行済額	17,701	12,684	12,559	4,505	3,696	
	うち交付金充当額	14,161	10,146	10,047	3,604	2,957	
	次年度繰越額	0	0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)	89.6%	97.9%	91.1%	96.1%	98.6%	
予算の状況の説明		共済費の不足により2千円の増額、旅費の実費精算等による58千円の減額により56千円の不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)	達成状況					
		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度		
	協力企業数 8社	目標	(6社)	(8社)	(8社)	(8社)	
		実績	17社	18社	20社	12社	
	県外実習研修 1回	目標	(2回)	(実施)	(実施)	(1回)	
実績		2回	実施	実施	1回		
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに協力いただける企業の開拓が難しくなっているが、これまでのつながりがある企業との連携に力を入れ、12社に協力してもらい、商品開発や町のPR、ボランティア等の活動に取り組んだ。 ・県外研修については、8月に三重県で研修を実施し、県外で販売することで県内の販売との違いを学ぶことができた。また、県外で活動する他の団体との情報交換をすることができた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)	基準値(年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値(年度)	
		・高校生、大学生へのアンケートを実施し、就業意識向上(85%以上)を含め、本事業のあり方について検証する。	目標	()	()	(85%以上)	(85%以上)
		実績			100%	100%	
	郷土愛の醸成についてアンケートで、評価80%以上	目標	()	()	(80%以上)	(80%)	()
		実績			100%	100%	
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生、大学生の就業意識をアンケート調査したところ、活動をととして全てのメンバーに就業意識の向上がみられ、目標値を達成した。 ・郷土愛の醸成についても、100%が西原町に愛着をもっていると回答し、目標値を達成した。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発の参考にするため、企業の企画開発会議に参加するとともに、新製品モニタリングへの協力を行った。結果、これまで開発してきた商品が量販店に日常的に陳列されるようになるには、更なる改良が必要であることがわかった。 就業意識の向上、郷土愛の醸成が図られたかを成果目標としているが、事業の効果をより検証できるような指標がないか検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の製造業者に加え、販売を行う業者とも連携し、作りたい商品から売ってもらえる商品へ改良を加えていく。また、販売、広告の方法について検討していく。 当事業が就職率の向上に繋がっているかについても、検証が可能であると考える。

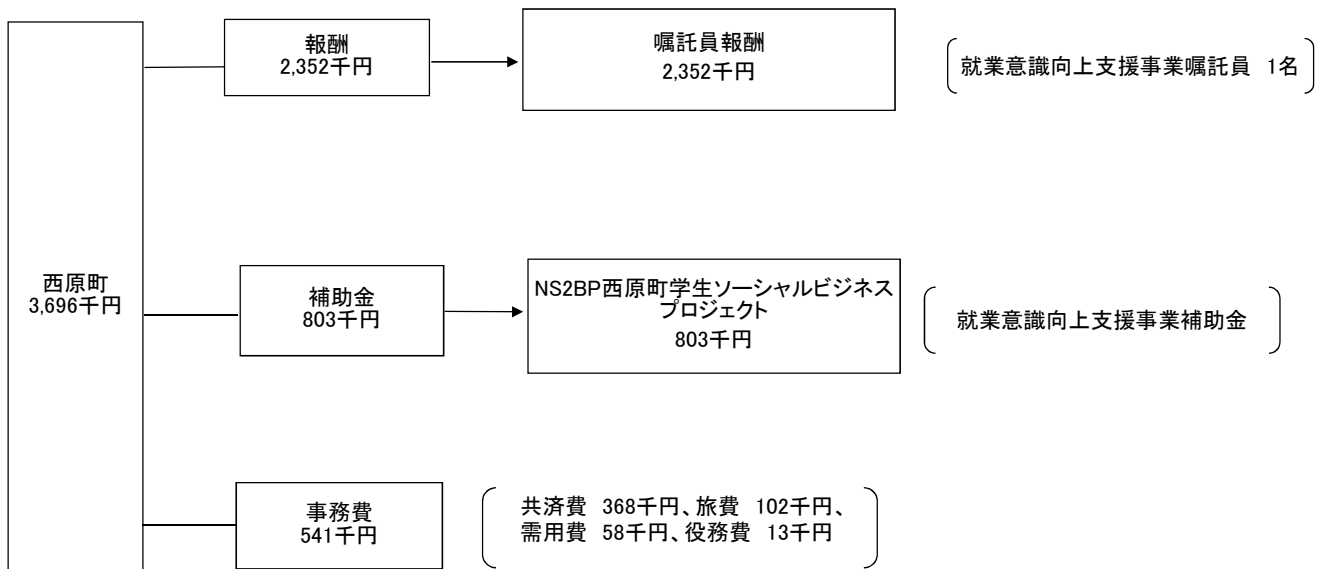
今後の取り組み方針

・イベント等で試食を行い、消費者の意見を聞き、商品開発に生かしていく。また、製造業者、販売業者と連携し、商品の販売計画について検討していく。

・より事業の効果を検証するため、町内、県内での就職率などのデータが収集可能か調査し、当事業が就職率の向上に繋がっているかについても、新たな指標として設定可能か検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
3,696	3,696	2,957	739	0



資金の流 れ 点 検 ・ 費 目 ・ 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○嘱託員は知識、経験等を勘案した上で採用した。補助先については、交付の対象となる要件を満たしているため、支出先として妥当であると考え。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○若干の不要額が発生したが、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については事業執行の目的に即し、必要なものであったと判断している。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	